

令和7年度ふくし川柳 一般の部

No.	作品	作品への思い
1	幸せと 愛を感じる コミュニティー	思いやり、ぬくもりのある福祉のまちづくり。甲府市の明るい未来を実感できる日々。
2	朝夕の あいさつのあと 望み聞く	過去に民生委員をしていた時、朝夕の挨拶に終わらず、身近な意見や希望を聞く工夫が必要だった。例えば買い物や交通の便などを。
3	笑いジワ いきいきサロンで 又増えた	生きいきサロンは数年前シニアクラブとの一本化で休止になりました。でもバス旅行や皆での茶話会・食事会と思い出いっぱい楽しかったです。
4	一人居の 声かけを待つ 翁いて	以前民児委員の任にあり、重点的に独居老人の安否確認の為、声かけをしていました。訪ねる内「待ってたよ」の声にやり甲斐を感じました。今でも習慣で声かけする時もあります。
5	ゴミ拾い 嘸って歩いて 町きれい	—
6	一声を 掛けて掛けられ 助け合い	声を掛け合って元気に暮らすことが長生きの秘訣であり皆笑顔でいられる。
7	今日もまた 元気もらえた 水曜日	毎週水曜日、体操教室に参加させて頂いています。先生の話を交えての指導がとても楽しく心身共に軽く家路に着きます。先生への感謝の気持ちで思い浮かびました。
8	いそいそと 通うセンター 花ひらく	朝、早くから体が福祉センターに行って運動・脳トレの勉強をしようと心が楽しく花が咲いた気分を作品にしました。
9	行きますか 隣の人に 誘われて	福祉センターをだいぶ前から利用している人に誘われて行くようになり、楽しんでいます。
10	気に掛ける 気持ち則ち 福祉かな	福祉の第一歩は、「自分の周囲に关心を持つこと」なのかもしれません。
11	助けているようで 助けられている	人とのつながりは社会性を育む前に、世間体を深め成長をくれるものだと思いました。
12	まちなかに 居場所があると いいですねえ	心から思ったことを書きました。ありがとうございます。
13	「こんにちは」 他人どうしが 今友に	偶然隣りどうしになった人や隣に座った人達と思いがけず長い友達になったりと、広がりを感じています。全て、こんにちは、から始まりました。
14	こんにちは いつもと同じ えびす顔	何気ない挨拶も地域の見守りに。恵比寿さまのような笑顔に癒されました。
15	「ありがとう」 地域をつなぐ 第一步	身近な人との何気ないふれあいに気づき感謝を伝えることがたたかなく地域を作るのに大切なことだと思いました。
16	ばあちゃんの となりでききたい ラジオの声	私の祖母は目が悪く、腰痛もひどいため寝ながらよくラジオをきいている。そんな祖母の横に座って一緒に聞く時間がこの先もずっと続いて欲しい。
17	助手席で 思い出かたる 母の顔	ショートステイに送る車の中の光景です。何度も聞かされる話しですがこの時はなぜか母の表情が穏やかですごく印象に残りました。この2日後に母は亡くなりました。
18	しわの数 一本ごとに 物語	自分の顔を見て、しわの数に驚いたことを書いた。 この川柳の"物語"は、長年生きてきて経験してきたことが顔のしわに表れていることを思いとして書いた。
19	しわの数 増えて刻なる 物語	長い間生きてきて濃くなってきたしわとその時間の中で刻々と積み重ねてきた物語をかけて川柳を作った。
20	老いは友 心は丸く 気は長く	老いると体のあちらこちらに痛みなど出でてきます。誰しも同じこと、老いは友にしよう。心は丸く気は長くして仲良く友を増して楽しみましょう。
21	赤ちゃんを 笑顔で見守る 地域の輪	小さな子供がいるのですが、地域の方や学生さんが子供に挨拶をしてくれたり、あやしてくれたりしてくれて、そういう地域への感謝の思いをこめました。
22	父笑ふ 浴衣の母の 車いす	縁日に向かう道。浴衣姿の母の車いすをやさしく押す父がなんとも可愛らしく見えた。息子の私も何だか幸せな気持ちになられました。
23	「こんにちは」 挨拶ひとつ 笑顔咲く	地域の小さな声掛けが心を明るくし、人と人とのつながりを深め、互いを支えあう安心感と温かさを生むという思いです。
24	あいさつは 人とをつなぐ 魔法の語	どこに住んでいるか知らない方とも、お互いの挨拶で顔見知りとなり、そこから会話が生まれていく温かさを感じています。
25	福祉のキーは 「お互い様」と 「お蔭様」	お互い様とお蔭様の気持ちを日頃から重んじ、「お互いが助け合う誠心『お互い様』」と「感謝の気持ち『お陰様』」が、福祉の基本(鍵)と感じております。